



# TCA

— NEWS —

**Vol.98 2月号**

発行

富山市民国際交流協会

〒930-0002 富山市新富町一丁目2番3号

CiCビル3F富山市国際交流センター内

TEL(076)444-0642 FAX(076)444-0643

発行責任者 広報・組織強化委員会

## 国際教養委員会 ディスカバー富山 (英語通訳ガイド実地研修)

**富岩水上ライン、岩瀬地区**

令和2年9月19日(土)



### 多国言語文化交流クラス (オンライン講座)

**フランス共和国 & フランス語  
～ブルターニュ地方～**

●講師 Mr. Pronost Guillaume

●日時 令和3年2月6日(土)

13:30～15:00

●申込み 令和3年2月4日(木)まで

※お話はフランス語で日本語の通訳があります。

**アルゼンチン共和国 & スペイン語**

●講師 Ms. Arias Debora Anabel

●日時 令和3年3月13日(土)

15:30～17:00

●申込み 令和3年3月3日(水)まで

※お話はスペイン語で日本語の通訳があります。

### 令和3年度 日本語ボランティア養成講座

**令和3年4月より開講予定**
●日時 毎月第2、第4木曜日  
10:30～12:30●場所 富山市国際交流センター  
会議室

●定員 20名

※詳細については3月以降に当協会のホームページでご確認下さい。

募集中です!!

# 多文化共生事業

災害時外国人支援語学ボランティア研修会 10月31日(土) 参加者21名

講師：八木 浩光さん (一財)熊本市国際交流振興事業団 事務局長  
(一財)自治体国際化協会 地域国際化推進アドバイザー

## 第1部 講演「コロナ時代における災害時支援」

災害時に外国人が直面する問題は、1 言語の壁、2 背景知識の不足、3 ニーズの多様性である。言葉の壁については、避難所などでは母国語もしくはやさしい日本語で対応することで少しでも不安を和らげることができる。英語についても母語話者でない可能性が高いので、やさしい英語を使うようにする。最近では、翻訳アプリや避難所受付での指差し会話ボードが便利である。背景知識の不足とは、地震を体験したことがなかったり、避難所が何かやどこから情報が得られるを知らなかったりすることである。ニーズの多様性は、食生活や習慣などが異なることが挙げられる。災害時の情報提供は大きな課題で、日頃から外国人へいかに情報提供をするかについて考えておく必要がある。地域日本語教室や様々なイベントを通じて交流を図り、一部の人のみではなく社会全体で多文化共生社会について考えることが大切である。今年のコロナ禍では、密を避けるために公的な避難所だけでなく安全な自宅や友人宅、ホテル等への避難も考慮するなど従来とは異なることも、外国人に周知しておく必要がある。



熊本地震からの教訓としては、災害が発生する前に備えること、防災訓練などで災害について学ぶこと、そして近所の人たちとの関係づくり、すなわち支え合うことができる多文化共生のまちづくりを日頃から推進しておくことが重要である。

## 第2部 情報伝達に必要な語彙や表現の訓練

英語、中国語、韓国語の3つの語学グループに分かれて、災害対策本部からの情報を各言語に直す練習をした。日本語を外国語にそのまま訳しても通じないのは背景知識の欠如があるせいであろう。それを考慮に入れて説明し、しかもできるだけやさしい翻訳をすることが大切である。

## 日本語ボランティア養成講座及びステップアップクラス

毎月第2・第4木曜日 講師：原 和子さん

日本語ボランティア養成講座は初めてこの講座を受けられる方を対象としていますが、毎年好評でたくさんの方が受講しています。外国人に日本語を教えるボランティア養成なので、日本語文法や指導法など日本語を教える際の理論が中心ですが、実践を踏まえた内容や少しずつ模擬授業も行っています。そのほかにも、「横」と「隣」の違い、「重さ」と「重み」の違いなど、普段何気なく使っている日本語を深く考えてみることもしています。日本語を別の視点でみるのも面白い体験です。



今年からステップアップクラスを新設しました。このクラスでは、模擬授業を中心に進めています。日本語ボランティアとして活動するしないにかかわらず、日本語をいろいろな面から考えてみると新しい発見がたくさんあり、皆さん楽しく受講しています。

## MPBで学ぶポルトガル語講座 講師：白川 セリナ サナエ 当センター

9月14日(月)

### 「テレビドラマにはまって歌おう！」(オンライン)

前回に続き、ブラジルのテレビドラマからヒットした曲を取り上げる。町のために奇跡を起こして死んだことで聖人に祭り上げられる男の名前、Roque Santeiro (ホキ・サンテイロ)がドラマと曲の題名になっている。宗教者を含む権力者たちが虚偽に基づいて男を聖人化し、町は聖地として発展する。時を経て、死んだはずのこの男が生還することから、町の繁栄は根底から揺らぐ…特定の宗教がストーリーの現代ドラマは、日本では、少なくとも私は見たことが無いが、ブラジルでは平気で取り沙汰される。他者の宗教に寛容な社会と合わせ鏡なのが見てとれる。

10月12日(月)

### 「恋愛分析できるポルトガル語の歌を聴こう！」

ブラジルの1988年のヒット曲Eduardo e Mônica (エドゥアルドとモニカ)は、青年と年上の女性との恋愛ソングだ。学歴、収入、趣味、社会活動、何をとっても女性の方が先をいくカップルは、いかにして違いを乗り越え、お互いを高め合い、恋愛を成就して幸福な家庭を築き上げたのか。二人の涙ぐましい悪戦苦闘ぶりを歌にした。集約すれば、「二人は“姉さん女房”でうまくいった」ということを4分半かけた歌にわざわざ展開し、聴く者に「あるある」感を覚えさせるところが、この歌のおもしろさなのだろう。

※11月9日(月)は、「投稿写真をMPBの歌詞で飾ろう！」というタイトルで実施した。



## ●洪水ハザードマップの見方、使い方

11月28日(土) 参加者29名

前半 講演：富山市河川課 川室 喬史さん  
洪水が少ないと言われる富山県だが、起る可能性はあり富山市発行のハザードマップを見て日頃から備えを心掛ける必要がある。市内を流れる14の河川の氾濫により浸水が想定される場所とその深さが色分けされていて、避難場所などの情報や、日頃から備えておくべき事柄などが1枚のマップにまとめられている。避難のタイミングについては、警戒レベルごとに取るべき行動が示されている。災害時に必要な情報は、緊急速報メールや防災行政無線、市のホームページの防災WEB等から得ることができる。

### 後半 表現練習

英語(初級、中級)、中国語、韓国語に分かれて災害に対して知っておくべき事柄を各言語で説明する練習をした。その中で中級英語クラスでは、まず参加者が洪水に関して意識がとても低いことが再認識された。米国人講師からは、災害時に使われる特有の言葉が障壁になると話され、どうやって外国人に分かりやすく伝えられるか話し合った。

## ●日本のお正月

12月26日(土) 参加者34名

前半 お話「世界のお正月を知って日本のお正月を伝える」

ホアン ティ チャムさん(ベトナム) ジェニファー リカフレンテさん(フィリピン)

碓井 エリザベスさん(オーストラリア) 銭 輝さん(中国・当協会相談員)

宋 善珠さん(韓国・当協会相談員)

外国人ゲストにそれぞれの国のお正月について話してもらった。たとえば年末の爆竹は、中国においては新年に「財」(金運)を呼ぶためであり、ベトナムやフィリピンでは厄払いのために鳴らす。音は大きい方がより効果があるらしい。ベトナムでは日本の書初めにあたるものがある。日本では左義長で燃やしてしまうが、ベトナムでは1年中家に飾る。アジアの国々ではお年玉の習慣が同じようにある。近所や会社でも受け渡しがあり、もらえるのは子供だけでなく大人の楽しみでもあるらしい。お祝いする時期、料理、行事、過ごし方、飾りつけなど千差万別で日本のお正月の過ごし方について彼らが疑問に思うことも話してもらった。本当に世界は広いなあという印象があり多様な価値観を改めて感じた。一方で、世界に共通の「お正月」という言葉はないが、新しい年の区切りを様々な形でお祝いしたり、新しい年の幸せと健康を願って家族や仲間が集まったりという根本は同じであると痛感した。その他の国として、ブラジルとエジプトのお正月の資料も配布した。

### 後半 表現練習

各言語に分かれて日本のお正月について外国人に説明するための練習をした。日本語も交えて行う英語初級クラスでは、英文の説明を読み合わせしてその語句の説明や発音などの練習を行った。英語のみの中級クラスでは、お正月に関する語彙をどのように外国人に説明するか一人ずつ挑戦してもらい、その後英語でディスカッションをした。日本人でありながら知らないことがいっぱいあることに新鮮な驚きを覚えた時間であった。

## 富山県民ボランティア・NPO大会パネル展示参加 10月17日(土) グランドプラザ

「広げようボランティアの輪」というスローガンのもと、毎年開かれているボランティア・NPOフェスティバルに、今回初めて参加しました。様々な分野の18団体が活動紹介(パネル展示)をされていて、日頃接点のない団体の方と交流ができてよかったです。今年は特に新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からチラシの配布などできませんでしたが、当協会の活動を紹介する良い機会となりました。

# 委員会報告

## 総務企画

総務企画委員会 国際交流TCAカレッジ&姉妹友好都市委員会 特別講座

## 姉妹友好都市

### 「セルビアへの一時帰国から日本への再入国まで」

講師 スロボダン パブコブさん 11月8日(日) 参加者34名

富山県のスポーツ国際交流員として水球の指導のため来県され、富山での暮らしも17年以上だそうです。2019年12月に3カ月の予定で祖国セルビアへご両親の介護のため帰国されました。しかし、その後世界中で新型コロナウイルスが広がり、日本へ帰国予定の3月には緊急事態が宣言され出国できなくなってしまいました。着用習慣のない祖国セルビアでマスクが高騰し、入手困難な厳しい状況の中でも、日本から持参した甚平を着たり抹茶を飲んだりしながら日本に思いを馳せ、戻れる日を待っていたそうです。このような状況になって痛感されたのは、まさしく「遠い親戚より近所の人々」の言葉でした。日本大使館とのやり取りを繰り返し9月ようやく再入国の許可が下り、到着した成田でのボランティアの方々の「おもてなし」に、日本に帰ってきたことを実感したそうです。17年暮らして日本が大好きになり、日本に戻れなかった経験を通してハートは半分日本人、日本がマイホームと改めて思ったとお話されたのが印象的でした。

### (参加された方の感想)

セルビアという国と、新型コロナウイルス感染症拡大下における海外との入出国の現状を知りたく思い参加しました。恥ずかしながら、私はセルビアについて知識がなく、かつてユーゴスラビア連邦に属していたこと、ドナウ川が流れていること、ロシアと同じルーツであること等を教えてもらいました。いろいろ勉強になりました。

スロボダンさんがなかなか再入国できなかった期間は、日本が本当に遠く感じられ、不安な日々を過ごされたことと思います。それでも富山に戻って下さったことに心を打たれました。

これからは、海外から来られた方々が富山を選んでよかったと思っていただけるように、もっと交流を深めたいと思いました。



10月21日（水）参加者 12名

講師：松山 優子さん JICA北陸 富山県デスク 国際協力推進員  
（元青年海外協力隊員 メキシコ ストリートチルドレン支援）

## 第1部

初めに「私の文化」シートが配布され、参加者は10の項目にYES・NOで答えていきます。これで自分の持つ「文化」の傾向が分かるそうです。

次に、参加者一人に1枚ずつ「地球家族」ワークシートが配られました。様々な国の家族がそれぞれ持っているモノ、衣服はもちろん食器や家具、家電まで全てを家の前に出して並べている不思議な写真です。その写真のどんなところが豊かであるかを考えます。

それからグループになって写真を持ち寄り、どの写真（家族）が一番幸せに見えるか順位をつけてその理由を考え、グループごとに発表します。家具というものがほとんどなく鍋釜しかないけれど笑っている写真や家族同士が仲良く寄り添っている写真、モノにあふれてはいるが家族同士が離れている写真など、豊かさに正解はないかもしれませんが、今一度考えるきっかけになりました。テンポよく展開するワークショップにあつという間の1時間で第1部が終了しました。

## 第2部

講師が青年海外協力隊として訪れていたメキシコでの活動（ストリートチルドレン支援）



と、日本でも今いろんな場面で呼びかけられているSDGs（持続可能な開発目標）について、その意義や取り組みを学びました。駆け足の説明だったので、さらに詳しく聞ける機会があればと思います。

## 文化交流

日帰り交流会 ポートラムと運河クルーズ 10月11日（日）

訪問先 富岩水上ライン乗船、岩瀬カナル会館、岩瀬地区散策

爽やかな秋空の下15名が参加して初の委員会合同企画の「岩瀬散策研修」を行いました。

富山駅から富山地方鉄道富山港線（旧ポートラム）に乗り東岩瀬駅で下車して、加賀藩政時代の街道である岩瀬大町通りを進み、国指定重要文化財の「森家」を訪ねました。北前船で財をなした「森家」の多くの富と文化について解説を受けながら見学し、その盛時の面影に思いを巡らせました。

「森家」見学後は琴平社の常夜燈をモデルにした「富山港展望台」に登る人や土蔵群の町歩きを楽しみながらクラフトビールの1杯を味わう人、ユニークな三角形のどら焼きを食する人、人気店のパン屋さんに向かう人などそれぞれ自由に散策しました。



その後「カナル会館」に再集合し、美味しいランチをいただきました。

帰りは「富岩水上ライン」に乗り、国指定重要文化財「中島閘門」を通り、ガイドさんの説明を聞きながら船旅を楽しみ、環水公園に無事到着し解散しました。

## ボランティア

食品サンプル作り体験 講師：滝川 真弓さん 12月13日（日） 参加者22名

まず、食品サンプルの中から合計で46gの範囲内で各自が好きなものを選ぶのですが、先生が作られた本物と間違えるようなエビや数の子、黒豆、伊達巻、かまぼこ、煮しめ等どれにするか迷ってしまいました。46gで納めるのがとても難しく何度も量り直しました。外国人参加者にとっては、ほとんどが見たことも食べたこともない食材ですが、それぞれの由来を知るとより真剣に材料を選んでいました。

半月型のお盆の上に色紙や千代紙を敷いて各自選んだ食品サンプルに、「賀正」「迎春」のカードや鶴・扇子などの折り紙と梅の造花も加えて配置を決めるのですが、どこにどれを置くかあれこれ迷い悩みました。きんとは、専用のグルー（のり）に色を混ぜて本物のように絞って作りました。黒豆の上に飾りの金箔を振りかけると一段と豪華になり、みなさん驚いていました。

接着後は、乾燥を待ちながらお互いの作品を見てまわりました。選んだ材料は似ていても全く異なる出来上がりで、参加者それぞれの個性が活きた出来栄えに感心させられました。それぞれ楽しいレイアウトでお正月気分あふれる飾りに仕上がりました。お正月に自宅の玄関に飾るのがとても楽しみです。





【手軽で！短時間で！見ごたえのある！帯結び】

着付けボランティアとしてお手伝いできる会員の方を対象に“手軽で！短時間で！見ごたえのある！帯結び”を学びました。

最初に、講師の方から合わせる帯や結び方で着物姿の印象が色々に変化することや1枚の着物をかわいく着たりシックに着たりとできるのも帯次第であること、帯の結び方はバリエーションも多く簡単に結べるものもあり、いろんなスタイルを楽しめることなどを教えていただきました。

着物文化の始まりや今人気の帯結びなど日本の着物文化についてのお話もありました。

その後、ソーシャルディスタンスを保つために、座布団を丸めて作成した「人体モデル」で帯結びに挑戦しました。先生から丁寧にアドバイスをいただきながら熱心に練習を繰り返し、最近よく活用されているというトリプル紐も用いて、着心地良く長時間着崩れない美しい帯結びを完成させました。最後の帯締めのアレンジも可愛くでき、またもっと頑張ろう！と思いました。

国際交流フェスティバルでの振袖の着付けにも活躍できそうです！楽しみに！



国際教養

中国語講座

◇ 「入門」（第1土）「初級ヒアリング」（第2土）「中国語で話してみよう」（第4土）

新型コロナウイルス感染症防止のため中止していた講座を9月から再開しました。本年度は、「入門」「初級ヒアリング」「中国語で話してみよう会話」の3講座を開催しています。「入門」では、ピンインから発音、簡単な文章作成を学習し、「初級ヒアリング」では、中国語に耳を慣らすための聴き取りと発音を学んでいます。「中国語で話してみよう」では、シチュエーション別に実践的な会話の練習を行っています。中国語では特に重要である発音や、受講者からの疑問・質問に明確に答えられるように、3講座共にネイティブの講師による講座です。お茶の時間にクラスメイトとのおしゃべりができなくなったことは残念ですが、受講者の方々の「学ぶ姿勢」は以前にも増して感じられます。当面は現在の形を継続せざるを得ませんが、また以前のようにおしゃべりをしながらの講座ができることを願っています。

多国言語文化交流クラス

◇ 11月7日（土）ミャンマー連邦共和国 講師：Ms. Su Wai Phyo

経済の中心ヤンゴンには、人口500万人の一番大きな都市で、2006年まで首都でした。シュエダゴン・パゴダ（塔状仏堂）があり、パゴダには金箔が貼られ、ダイヤモンドやルビーが散りばめられています。現在の首都は、ネーピードーで第3の都市です。

バガンには、古代都市の遺跡としてユネスコの世界遺産に登録されているバガン遺跡があります。9世紀から13世紀まで首都だったバガンは、現在漆器産業の中心地です。バガン漆器は観光客にお土産として人気があります。

モン州のチャイティーヨパゴダは、崖の上の岩の上にあり、落ちそうで落ちません。金箔が張られた岩には仏陀の遺髪が納められているという伝説があります。重要な巡礼地の一つなのですが、信仰上、女性はこの岩に触れることはできません。

ティンジャンと呼ばれる、4月に行われる新年を祝う水かけ祭りは、最も大きなお祭りで一年で重要なイベントです。旧年の汚れや苦しみを水で洗い流すという意味を込めて水をかけ合います。タイやラオス、カンボジアでも同様の水かけ祭りが行われます。パダウはこの時期のみに開花する黄色の花で、1年に一度一日だけ花が咲きます。日本の桜に相当するミャンマーの代表的な花で、水かけ祭りのシンボルです。

ミャンマーの化粧にあたる「タナカ」は、日焼け止めの効果もあります。ミャンマーの中央部に生育する木から作られるもので、黄色く絹のような質感で樹皮からの良い香りがします。伝統行事が今も多く息づいていることがとても印象的でした。



## 多国言語文化交流クラス

◇ 12月12日(土) オーストリア共和国 “ウィーンの12月” 講師：ウォルフガング ツォウベク さん

クリスマスの準備は、4週間前の日曜日のアドベント（待降節）から始まります。アドベントクランツ（リースの上に4本のろうそくを立てたもの）に、日曜日ごとに一本ずつ火を灯します。アドベントカレンダーは、クリスマスまでのカウントダウン用のカレンダーで様々な形がありますが、窓になっている場合が多く、チョコレートが入っているものは子どもたちに人気です。このころからクリスマスマーケットが各地で開かれます。暗くて寒い冬ですが、このマーケットの山小屋風のお店やイルミネーションで、一度に明るい雰囲気になります。マーケットの定番はグリューワイン（赤ワインにスパイスを入れて温めたもの）で、毎年新しくデザインされたカップで出されます。また、ツリーに飾る木製のかわいい飾りも売られています。クリスマスツリーは生木でスーパーの駐車場などいろいろなところで売られています。24日にかわいいオーナメントやろうそくを飾り付けます。

お菓子で代表的なのがシュトレンやクッキーですが、親子でのクリスマスクッキー作りは大切な行事の一つです。このワクワク感と家族と一緒に準備する期間が、クリスマスをより特別なものになっています。伝統的な料理としてガチョウの丸焼きやラッキーアイテムとされている鯉を食べます。

日本のお正月と似ていてクリスマスは家族と静かに過ごし、年末は友達と花火を楽しみます。日本のおみくじに当たる占いは、溶かした錫を水の中に入れてその形によって運勢を見ます。

ツォウベクさんは、ウィーン料理の本も執筆されており、料理の説明には力が入っていました。ドイツ語のクリスマスソングを聴きながら、クリスマスムードあふれる楽しい時間となりました。

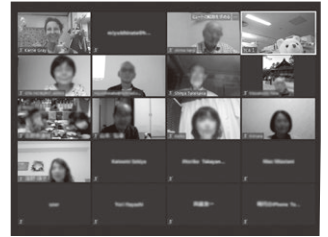


## 英語プレゼンテーション オンラインで行いました

❖ 9月8日(火)  
“Vietnam homelands”  
スピーカー：  
Ms. Le Uyen Nguyen  
(ベトナム)



❖ 10月13日(火)  
“My life and travels in Japan”  
スピーカー：  
Ms. Kerrie Gray  
(オーストラリア)



❖ 11月10日(火)  
“How Japan has influenced my taste and way of cooking in 9 years”  
スピーカー：  
Ms. Dinya Monika  
(ハンガリー)



❖ 12月8日(火)  
“Perspectives and Experiences of Study Abroad and International Students”  
スピーカー：  
Professor Simon Peter Bahau  
(千葉県より講演/バブアニューギニア)



## ディスカバー富山(英語通訳ガイド実地研修) 9月19日(土)

訪問先：富岩水上ライン乗船、岩瀬カナル会館、  
岩瀬地区散策(岩瀬カナル会館、諏訪神社、富山港展望台、北前船廻船問屋森家、しろくまINN、クラフトビール醸造所)

まずは、環水公園の水上ライン乗船場から運航船「kansui」に乗り込んだ。快晴だが秋の気配が感じられるさわやかな空気の中を船は軽やかに、そして静かに運河に沿って進む。船上では3班に分かれて、それぞれの班の外国人ゲストにボランティアガイドの方の解説の通訳を試みる。途中の中島閘門では、水上エレベータに皆歓声を上げる。岩瀬に到着後、カナル会館で持参の弁当をとった。昼食後はスタンプラリーを楽しみながら諏訪神社、富山港展望台、森家を訪れた。森家では、館長の説明の逐語通訳に挑戦した。参加者たちはそれぞれの英語力を総動員して必死に通訳していた。その後、岩瀬でB&Bを営むケーレン・キースさんにご自身の施設で岩瀬の観光についての話をしてもらった。最後は、チェコのビール職人が最近始めた醸造所兼パブ（国登録有形文化財「旧馬場家住宅」の土蔵を活用した店舗）を見学後、ライトレールで富山に帰るグループと残って岩瀬産のビールを飲みながら富山の観光の議論を続けるグループに分かれたが、実に充実した一日だった。

## The Association of Foreign Wives of Japanese (AFWJ)

Elizabeth Usui

The Association of Foreign Wives of Japanese (AFWJ) (日本人の外国人妻の会) was started by an American woman living in Niigata in 1969. Life in that era must have been very different compared to the present day and many homes did not even have a telephone. The founder wanted to find other women in Japan in a similar situation and so she contacted a columnist for the Japan Times and organized a meeting for other foreign wives of Japanese at the American Club in Tokyo on September 7, 1969. From that inaugural meeting to the present day, AFWJ has continued to be a source of support and friendship for its members. It is a fee-paying association and members receive a quarterly journal and can attend various events in their local district as well as the annual national convention which usually attracts around 100 members from all over Japan and overseas. The 2020 convention was scheduled to be held in Toyama city this past October, however, due to the COVID-19 pandemic, we had to cancel the event. At this stage, we are hoping to reschedule it for 2022.

I have been a member of AFWJ since 2000 and have appreciated the help, support, and friendship the members have given me over the past 20 years. I have become friends with other foreign wives living all over Japan and I think this would not have been possible without AFWJ. Our current membership within Japan and overseas is around 500. Admittedly, our membership has decreased since the advent of the Internet and other Social Networking Sites. It is a lot easier for people these days to find other people who share similar circumstances and interests and join groups on Facebook for example. However, AFWJ offers a special closeness and comradery that I think is difficult to find in many online groups. Membership is open to all foreign women with Japanese partners and costs ¥7,000 per year. For more information please check our website at <https://afwj.org>

## 日本人の外国人妻の会

碓井 エリザベス

日本人の外国人妻の会(AFWJ)は、1969年に新潟在住の米国人女性が始めた会です。その当時の生活は、現在とはたいへん異なり、多くの家には電話さえありませんでした。創始者は、日本に住んでいて同じような状況の女性を見つけたくてジャパントイムズのコラムニストに連絡を取り、1969年9月7日に東京のアメリカンクラブで日本人の外国人妻の方たちが集う会を企画しました。その発足から現在まで、AFWJは会員たちに支援や交流の機会を提供し続けてきました。会費制の組織で、季刊誌を受け取ることができ、地域における様々な行事に参加することができます。また日本全国そして海外から例年約100名の参加者が集う全国大会にも参加できます。2020年10月には全国大会を富山市で開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止せざるを得ませんでした。2022年に再度開催地として富山で全国大会を開催できることを願っています。

私は2000年からAFWJの会員で、20年以上にわたり、この会を通じ支援を得て、交流の機会を持てたことに感謝しています。日本中に住む外国人妻の方たちと友だちになることができ、AFWJなしには、考えられないことと思います。現在、日本及び海外の会員数は約500名です。会員数は、インターネットや他のSNSの普及で確かに減少しています。たとえば、Facebookなどで、同じような状況や趣味を持つ人たちと繋がることは容易になっています。しかし、AFWJは他のオンライングループでは得難い特別な親近感や仲間意識を与えてくれていると考えています。会員は、日本人のパートナーを持つ外国人女性であればだれでも加入できます。年会費7,000円です。詳細は、ウェブサイトをご覧ください。

<https://afwj.org>

## Research is The Essence of Science

Khaled Ghandour, Ph.D.  
Specially Appointed Assistant Professor.  
Graduate School of Innovative life Sciences.  
University of Toyama

COVID-19 has certainly affected the life of all our friends and families. Doing research in the midst of the COVID-19 crisis is certainly among the most difficult things and challenging jobs to do. Doing research is based mainly on discussing and sharing your ideas in scientific symposia and giving seminars which was all stopped and banned in response to the latest COVID-19 crisis.

Because sharing your ideas and thoughts with others always help you get new ideas and broaden your knowledge.

Also, because of the COVID-19 crisis I was stuck in Egypt after spending a vacation there and could not return to Japan for 8 months. Moreover, after reaching Japan I had to stay for 2 weeks in a hotel as a quarantine before returning back to the University of Toyama and start doing my research again.

However, we strive to continue to do our research among all these difficult circumstances by taking all the precautions and the protective measures so that we can both pursue our research and protect our health and those we love. In order to try to help all the community and the world with the world class level research we are doing.

## 研究は科学の本質

カレド ガンドウル  
富山大学大学院医学部薬学研究部  
生化学講座特命助教授

新型コロナウイルス感染症は、友人や家族、私たちすべての生活に如実に影響を与えてきました。コロナ禍での研究は、最も困難ですがやりがいのある作業です。研究では主に、シンポジウムで議論したり考えを共有したり、またセミナーを開催することが基本です。しかし、今回この新型コロナウイルス感染症拡大によりすべて中止となりました。他の研究者たちとの意見交換や情報の共有は、新しいアイデアを得たり知識を深める助けとなります。

また、エジプトでの休暇後、新型コロナウイルス感染症拡大に伴って足止めとなり、8カ月間日本に帰ることができませんでした。さらに、日本に入国してから富山大学に戻る前に2週間ホテルで自己隔離をし、ようやく研究の再開にこぎつけました。

しかし、このような困難な状況下においても、あらゆる予防策や防護措置を取りながら我々自身と愛する人の健康を守るため、研究の継続に努めています。私たちが行っている世界レベルの研究で、全てのコミュニティや世界を助けるために…



# お知らせひろば

お申し込み・お問い合わせは当協会まで  
TEL 076 (444) 0642  
FAX 076 (444) 0643  
E-mail info@tca-toyama.jp

## これからの講座・イベントカレンダー（2月～3月）

| 日時                      | 講座・イベント                                                                            | 定員(名) | ところ   | 担当委員会 | 会費 | 対象     |
|-------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|-------|-------|-------|----|--------|
| 2月 6日(土)<br>13:30～15:00 | 多国言語文化交流クラス（オンライン講座）<br>「フランス＆フランス語」<br>講師：Mr. Pronost Guillaume                   | 30    | オンライン | 国際教養  | 無料 | 会員     |
| 2月 9日(火)<br>18:30～20:00 | 英語D Presentation Speaker：Mr. Greg May<br>Topic：“Midwestern US people and language” | 30    | オンライン | 国際教養  | 無料 | 会員     |
| 3月 9日(火)<br>18:30～20:00 | 英語D Presentation                                                                   | 30    | オンライン | 国際教養  | 無料 | 会員     |
| 3月13日(土)<br>15:30～17:00 | 多国言語文化交流クラス（オンライン講座）<br>「アルゼンチン共和国＆スペイン語」<br>講師 Ms. Arias Debora Anabel            | 30    | オンライン | 国際教養  | 無料 | 会員     |
| 2月または3月                 | 華道体験                                                                               | 20    | 当センター | 文化交流  | 未定 | 会員・外国人 |

※ 行事については、ホームページ <http://www.tca-toyama.jp/> でご確認ください、協会までお問合せください。

※ 休館日（2月～3月）・・・2月16日（火）・17日（水）、3月16日（火）

## おめでとうございます

令和2年度  
とやま国際草の根交流受賞

大森 茂さん



## 事務局よりメッセージ

まだまだマスクが手放せない日々が続いていますが、いかがお過ごしでしょうか。

2020年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、例年のように交流会等の各種事業が思うように実施できず、たいへん残念に思っております。9月からは、ほぼすべての講座を実施していますが、新年早々の大雪の影響で、一部の講座を再度日程変更や休講にせざるを得なくなり、会員の皆さんにも更なるご不便をおかけすることになって申し訳ない気持ちで一杯です。一日も早く、思う存分活動できる日がくることを願うばかりです。4月からの講座につきましては、決まり次第ホームページでご案内いたします。当面はウィズコロナが続く状況が否めないと思いますので、感染防止対策をしっかりとって、できることをできるだけできる限り実施してまいります。ご理解ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

## ◆ 新規会員募集中 ◆

富山市民国際交流協会では、市民のみなさんが幅広く参加できる国際交流を推進するため、新規会員を募集しています。

みなさんも私たちの輪に入って、富山市の良さや国際交流の楽しさを一緒に発見しましょう！

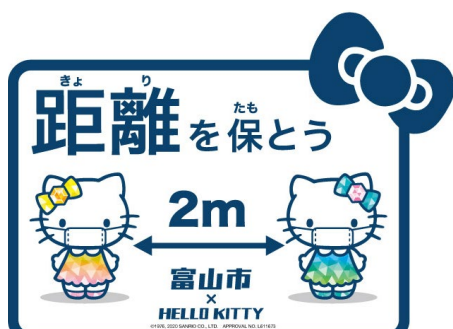
### ご入会特典

- ★協会広報誌TCA-NEWSをお送りします。
- ★各種イベントのスタッフとしてボランティア活動に参加し、外国の方と交流できます。
- ★語学講座や講演会に参加できます。

|           |         |
|-----------|---------|
| 〈年会費〉個人会員 | 3,000円  |
| 家族会員      | 5,000円  |
| 法人・団体会員   | 10,000円 |

## 編集後記

当協会では新型コロナウイルス感染症防止対策として、三密を避け参加者の検温や手指消毒を徹底して、イベントや語学講座を開催しています。しかし、国際交流フェスティバルをはじめとする大きいイベントの中止があり、大変残念でした。さらに、新年早々富山市は35年ぶりに1m以上もの積雪に見舞われ、交通障害により不便な生活を強いられました。しかし、これらの困難を克服することで2021年が皆様にとってより健康で楽しい年になることをお祈りします。（大森）



ソーシャルディスタンスの確保を意識しようね！



周囲に人が多いところではマスクをつけようね！



こまめに手を洗おうね！